

～約100年ぶりの再発見～

西郷隆盛の 自筆書簡が

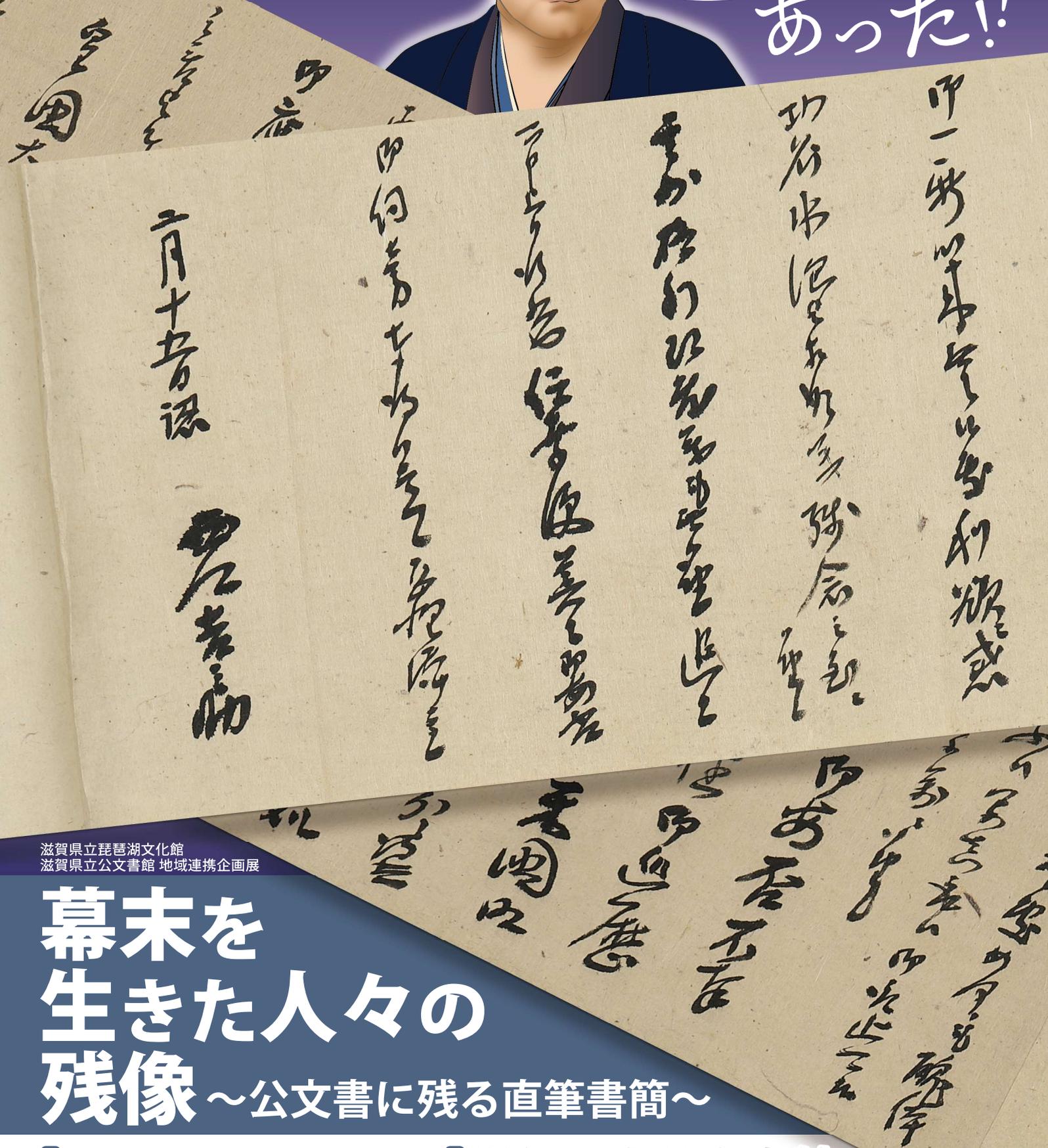


滋賀

たまがりもした!
(おどろき)

にあった!

鑑賞無料
特別公開



滋賀県立琵琶湖文化館
滋賀県立公文書館 地域連携企画展

幕末を 生きた人々の 残像

～公文書に残る直筆書簡～

会期 令和6年〔2024〕5.27〔月〕→9.26〔木〕

〔開館時間〕午前9時～午後5時〔休館日〕土・日曜日、祝日
西郷隆盛書簡は全長4.75mの卷子装のため、会期中に巻き替えて展示します。

会場 **滋賀県立公文書館**

滋賀県庁 新館3階 滋賀県大津市京町四丁目1-1 ☎077(528)3126
〔交通〕JR大津駅から東へ徒歩5分◇京阪電鉄 島ノ関駅から南南西へ徒歩5分

西郷隆盛書簡（個人蔵）
〔琵琶湖文化館寄託〕

〔主催〕 滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県立公文書館

滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県立公文書館 地域連携企画展

幕末を生きた人々の 残像～公文書に残る直筆書簡～

令和6年
〔2024〕5.27月 → 9.26木

まごうことなき、南洲隆盛の自筆書簡。筋が通り、均一の行間で書かれるなど筆跡の特徴が如実にあらわれている。内容は周知のものだが、まさか今に実物が出てくるとは驚いた。良いものが見つかってうれしい限りだ。

【公益財団法人西郷南洲顕彰会 高柳毅専門委員】

令和5年9月、滋賀県立琵琶湖文化館に、明治維新の功労者である西郷隆盛の直筆書簡が寄託されました。この書簡は、明治5年(1872年)2月に、西郷から欧米外遊中の大久保利通へ宛てられたものと考えられ、当時の国内状況や西郷の個人的心情を今に伝える近代史研究上一級の史料として知られていたものです。

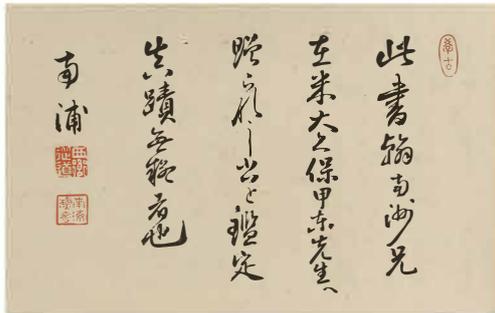
長らくこの書簡は原本の所在が不明とされ、写真版によって知られてきましたが、このたびの寄託に際しての再調査によって、その原本であることが約100年ぶりに明らかとなったものです。

本展では、この貴重な書簡を、連携企画展示として公開します。併せて、県指定有形文化財である滋賀県行政文書等を展示し、日本近代史と滋賀県の関係について紹介します。



西郷隆盛書簡は全長 4.75mの卷子装に表具されているため、会期中に巻き替えをして、展示します。

(翻刻)
尚々貴兄之写真参候処、如何ニも醜体を極候間、もふハ写真取ハ御取止可被下候。誠氣之毒千万ニ御座候。
尚々書き(追伸)の部分は、友人である西郷へ贈呈された大久保の肖像写真を「醜体」と称して批判するなど、西郷の写真嫌いを象徴する発言としてしばしば引用される名エピソードで広く知られる。



実弟の西郷従道が書いた「兄の真筆に疑いない」とする鑑定書



〔署名〕西郷吉之助(隆盛)

本展は滋賀県立琵琶湖文化館と滋賀県立公文書館による「地域連携企画展」として開催します。

webサイトのご案内



琵琶湖文化館



公文書館



滋賀県の玄関口に

「新しい琵琶湖文化館」が誕生します！

滋賀県 文化スポーツ部 文化財保護課
☎ 077-528-4681
✉ bunkatsu@pref.shiga.lg.jp



国宝・重要文化財の指定件数が全国第4位である滋賀県では、「近江の文化財で“つなぐ”“ひらく”未来の滋賀」を基本理念とした新施設を、令和9年12月に大津市浜大津で開館することを目指しています。

文化財を収蔵、展示するミュージアム機能に加え、「地域の文化財サポートセンター」、「文化観光拠点となるビジターセンター」の機能を備えた、近江の文化財の中核拠点となる予定です。



場所：大津市浜大津五丁目
建物：地上4階建鉄筋コンクリート造
建築面積 約 2,200 m²
延床面積 約 6,700 m²



整備予定地
(※地理院地図(国土地理院)を利用)

「湖国の夢と滋賀の宝を未来に伝える 希望の船」をイメージした外観デザイン

